新病院基本設計に関する市民説明会　質問及び回答
（令和8年7月30日　有馬富士共生センター、令和8年8月2日　まちづくり協働センター）

No	項目	質問内容	回答内容	日程・場所
1	医師確保	●医師の確保についてだが、自身も研修医に診ていただいたことがあるが、研修医は今もいるのでは。若手医師から選ばれないというのはどういうことなのか。若手医師が病院を選んでいるのか、それとも大学側で選んでいるのかを教えてほしい。	●三田市民病院・済生会兵庫県病院ともに医局が神戸大学となっており、新病院の診療体制等についても、神戸大学と協議をさせていただいている。限られた症例件数のまま研修医を派遣することは難しいというお話をいただいており、現場で働く医師にも多くの症例数をこなしてもらいたいという希望もされているので、再編統合による一定規模の病院を作っていきたいと考えている。 ●また、診療科数を35診療科まで広げるためには、初期研修医の枠を増やしていかなければならない。また、専攻医を確保するための研修体制も充実させていく必要がある。新専門医制度は施行されて数年が経過しているが、今後の病院のあり方を見据えた体制づくりが自治体にとって重要となってくる。	8月2日 まちづくり協働センター
2	医師確保	●新専門医制度の説明があったが、厚労省がこの制度の弊害を示している。医師の偏在をどう解消していくのかを考え、総合医療を充実させなければならない。大学病院といった大規模病院での研修でなく、地方の中小病院でやるべきだと厚労省は考えを示している。医療を取り巻く状況が変わってきているので、三田市も考え方を変えるべきではないのか。	●地域を中心とした総合医療に関する資料等がある一方で、地域の急性期医療や医療機関の機能集約化の考え方は変わっていない。これまでと変わらず新病院の整備を進めていく。また、市内の医療機関との連携といった地域医療の充実については、跡地活用も含めて、これまで以上に強化して進めていきたいと考えている。	8月2日 まちづくり協働センター
3	スケジュール	●資料P.12のスケジュールについて、入札時期や工事契約時期を入れるべきだが、なぜ記載がないのか。	●実施設計を、来年4月まで進めていく。その後法手続きを進めて、5月～6月に公告予定で準備を進めているが、時期が明確になっていないので記載していない。	7月30日 有馬富士共生センター
4	スケジュール	●スケジュールを見ると、建設工事はR9.4から始まるとなってる。工事の前段の手続きを記載しておくべきではないのか。	●スケジュールにおいて建設工事がR9.4からに見えるのは、上半期から着手する（R9.9～）ことから資料のとおりになってる。実施設計についてはR9.4までを予定しており、そこからなるべく早期に建設工事に着手したいと考えている。	7月30日 有馬富士共生センター
5	スケジュール	●R7～8にかけて用地調査・取得を行うスケジュールになっているが、その進捗率を教えてほしい。R8年度中に終わる見通しなのか。	●用地買収については、現在、諸手続きを進めており、今年度中に用地買収を完了させたいと考えている。取得は事業認定後からとなり、現時点の取得率は０％となっている。	8月2日 まちづくり協働センター
6	埋蔵文化財	●埋蔵文化財調査はいつ行うのか。その調査結果次第で開院時期が延びるということはあるのか。	●埋蔵文化財調査は現在終了し、本掘調査も不要となった。ボーリング調査も終了している。	8月2日 まちづくり協働センター
7	薬局	●このあたりは市街化調整区域なので薬局ができないのではないか。新病院が出来ても、旧病院前の薬局まで薬をもらいに行かなければならないのであれば不便である。	●薬局に関しては、敷地内整備は予定していない。市街化調整区域となっているが、できる限り病院に近接できるよう神戸市関係部局と協議している。	8月2日 まちづくり協働センター
8	建物	●なぜ鉄筋コンクリート造から鉄骨造に変更したのか。工法を変更した方が望ましいという理由があったからなのか、それとも事業費の削減によるものなのか。	●鉄筋コンクリート造から鉄骨造にしたのは費用面のメリットもあるが、設計者との協議の中で費用面や設計上の柔軟性も重視した結果である。	7月30日 有馬富士共生センター
9	建物	●鉄筋コンクリート造から鉄骨造になり、院内保育所も軽量鉄骨となっていた。なぜ。病院本体はしっかりしているのに、レベルダウンしたのか。	●鉄骨造に変更したのは、設計者との協議の中で、費用面や設えの柔軟性について協議した結果である。また、院内保育所の構造は、現在、重量鉄骨で検討を進めている。	7月30日 有馬富士共生センター
10	建物	●私は一級建築士。国内の大規模工事の多くが鉄筋コンクリート造。当初、鉄筋コンクリート造だったのに、鉄骨造に変わってしまい残念である。費用面で安いからそうしたのかもしれないが、三田市から設計へ要望したのか。	●費用面の比較も行ったが、必ずしも鉄骨造の方が安くなるということはない。費用面のこともあるが、工期にも大きな影響がある。	7月30日 有馬富士共生センター
11	建物	●7階建てから6階建てに変更したのはなぜか。	●基本計画では6～8階建てとしていた。1フロアに4病棟にしたのは、看護体制の組みやすさやスタッフ動線、建物の高さを抑えることにより、日影による周辺環境・農地への配慮等を総合的に勘案した結果である。	7月30日 有馬富士共生センター
12	建物	●鉄骨造にした場合の耐久性は問題ないのか。 ●病院を作るのに借金をして、30年間で返済しても、30年後にはまた病院を立て直さないといけない。借金がずっと続いていくことについて、誰が責任を取るのか。 市財政が悪化してしまうと、バス・タクシー助成も予算が削られてしまうのではないか。本当にこの病院を建設していいのか。市民の心配をなくしてほしい。また、ここに示されていない費用もあるのではないか。	●建物の耐久性について、一般的に病院の耐用年数は約40年と言われており、それが鉄骨造であっても同じである。 ●平成初期の建造物は鉄筋コンクリート造が多いが、免震構造が普及してからは、鉄骨造も優位になってきている。事業費が今後も高騰していく可能性が高いが、事業費は全てお示ししている。また、処理残土は約45,800㎥と試算しているが、実施設計段階でこの残土を減らしていけないか検討している。	7月30日 有馬富士共生センター
13	建物	●管理エリアのセキュリティはどう考えているのか。管理エリアを制限エリアにしようと思うと、構造的に難しいように思える。	●施設セキュリティについて、配布の資料のとおり区画ごとにセキュリティを施そうとしている。	8月2日 まちづくり協働センター
14	建物	●建物概要をみると、基本計画時には鉄筋コンクリート造だったものが、基本設計では鉄骨増となっている。現三田市民病院は鉄筋コンクリート造より上の鉄骨鉄筋コンクリート造。鉄骨鉄筋コンクリート造の病院がが31年で老朽化しているというのであれば、新病院は何年維持できる想定なのか。税金の無駄遣いにならないか心配である。 ●先日の熊本地震時にイオンでガス爆発があったが、イオンも同じ鉄骨造。ガス爆発で室内がボロボロとなっているが、新病院も同じ構造で大丈夫なのか。建物の安全性をどう担保しているのか伺いたい。	●基本設計時に鉄骨造にしたのは、設計者とメリットとデメリットを比較しながら協議して決定した。具体的には、コストダウンを図ることができることと、柱のスパンを広くとれる等の設計上の柔軟性があることが利点としてある。 ●鉄筋コンクリート造であったとしても建物自体は老朽化していき、設備や配管の入れ替えは必要となってくる。新病院では鉄骨造としたが、設備老化等を考慮しても30年強は耐えれる強度を有する設計になると考えている。	8月2日 まちづくり協働センター

新病院基本設計に関する市民説明会　質問及び回答
（令和8年7月30日　有馬富士共生センター、令和8年8月2日　まちづくり協働センター）

No	項目	質問内容	回答内容	日程・場所
15	建物	●鉄骨造に変更とのことだが、安全性の確約をいただきたい。	●現病院は免震構造が普及していない時代に建ったもので、建物自体の躯体を強固にすることで耐震性を保とうとしていた。免震構造の場合、免震構造の上に乗る重量が軽い方が、耐震性が強くなる。鉄骨造と鉄筋コンクリート造を比較すると、より軽い鉄骨造の方が優位となる。	8月2日 まちづくり協働センター
16	駐車場	●雨天時に屋根が小さくて、患者が濡れないか心配である。巨大な屋根を設置することは難しいかもしれないが、「患者に優しい病院を作る」ということを念頭においてほしい。	●車いす用駐車場については屋根を設けるほか、患者用駐車場の屋根についても、患者が濡れないような仕様の検討を進めていく。	8月2日 まちづくり協働センター
17	道路	●長尾南交差点からの入り口ですが、宅原線はすごく狭い。幹線道路から入るようになっているが、鹿の子台から来る人もいる。朝の時間帯は渋滞になるのではないか。	●宅原線については道路拡幅を行う予定で、右折レーンや歩道を作る計画である。北神中央線についても道路拡幅を行い、右折レーンの延長も行う予定である。長尾宅原10号線については、鹿の子台から自動車で進入できないようにする予定であるが、徒歩で敷地内に入ることは可能となる予定である。	7月30日 有馬富士共生センター
18	道路	●宅原線から東に行くと、踏切に当たる。道が狭いので、大型車は通れない。	●病院設置者として病院用地に隣接する道路については拡幅等を行っていく。宅原線東側の生活道路の混雑については、地元の方々からもご意見をいただくが、神戸市が検討されるものである。	7月30日 有馬富士共生センター
19	道路	●嶋ケ谷交差点も交通量が多いが、工事をする予定はないのか。	●嶋ケ谷交差点の改良工事の計画はない。	7月30日 有馬富士共生センター
20	道路	●資料P.8の病院のタクシー出入口については、三田市側からは左折だが、神戸市側からは入れないということか。	●神戸市からは右折では入れないが、宅原線に回ってロータリーに入ることができる。	7月30日 有馬富士共生センター
21	道路	●配置動線計画だが、渋滞の問題が三田市民病院・済生会兵庫県病院両方にある。一般車両が入る道が狭いと思う。駐車場の入口にゲートがあるのか分からないが、最悪の渋滞時を避ける設計をしてほしい。	●北神中央線の長尾交番前からの右折滞留長を30mから210mに延長し、長尾南交差点の右折滞留長も30mから165mに延長する予定である。院内への患者同線は神戸からは右折にはなるが、病院北側の宅原線の幅員を6mから右折レーンと歩道も入れて12.5mに拡幅する。病院敷地に入る道路の幅員も7mで整備する予定である。	8月2日 まちづくり協働センター
22	道路	●主出入口から長尾南交差点までの道路を拡幅するとのことだが、病院東側道路を利用する人が多いと思うので、病院東側道路を拡幅してほしい。また、主出入口は交通事故が起こらないか心配だが、信号機は設置されるのか。	●主出入口から長尾南交差点までの道路については拡幅し、主出入口へスムーズに誘導したいと考えている。また、病院東側の抜け道については地元から聞いているが、幹線道路から入っていただけるようホームページでの周知や交通誘導、案内板等の設置を検討している。それでも交通量が増えるのであれば、神戸市関係部局と協議していくこととなる。	8月2日 まちづくり協働センター
23	道路	●新病院東側の道路は利用できるのか。	●長尾宅原10号線という鹿の子台側からの道路から車の乗り入れは考えていない。また、長尾宅原10号線の北側は河川管理用道路で、基本的には通行の制限を設けようと考えている。	8月2日 まちづくり協働センター
24	交通	●以前、田村市長がコミュニティバスを走らせると言っていたが、どうなったのか？新病院には車でないといけないのか。交通手段の無い人はどうするのか。	●コミュニティバスの件だが、当時基本計画で公共交通の課題対応等について記載していたが、交通事業者にロータリーに入ってきてもらえるよう協議をしているが具体的にはまだ決まっていない。公共交通の補完としてシャトルバス導入も検討していく。	7月30日 有馬富士共生センター
25	交通	●交通アクセスについて検討中とのことだが、何年かかっているのか。新病院とセットではないか。年内には出してほしい。 ●説明会は2回ということだが、説明会として貧弱。何か裏でもあるのか。市民が参加しやすい時間帯を考えるべき。市内有権者数を考えてこれで市民にちゃんと説明したと言えるのか。	●交通アクセスの具体策をお示しできていないというご意見は真摯に受け止めなければならないが、開院時期がまだ先であり、交通事業者との協議がまとまるのは開院時期がもう少し近づいてからとなることをご理解いただきたい。公共交通の協議がまとまらないと、その補完となるシャトルバスの具体策を示すことができない。 ●これまでからも市民の皆さんに本事業について、丁寧に説明を重ねてきた。これまでの経緯や財政負担の枠組み等は変わっていないことから、回数を減らしているが、平日・休日/農村部・市街地を考慮して開催することとしている。	7月30日 有馬富士共生センター
26	交通	●今後発生し得る災害のことを考える、早急に新病院作っていただきたいが、新病院への交通手段についてはどのように計画しているのか。	●路線バス事業者と定期的に協議をしているが、開院時期がかなり先であるため、ダイヤ改正や便数等の具体案が出されていない。具体的な案を出せるようになればお示ししたいと考えているが、新病院のロータリーになるべく多く乗り入れてもらい、補いきれない場合はシャトルバスで補完していきたいと考えている。	8月2日 まちづくり協働センター
27	交通	●地域によって路線バスの本数が減ってきており、不安を抱いている方も多い。例えば、「〇〇駅からバスが出る」といった具体的な提案をしてほしい。現三田市民病院に行くのも大変という人もいる中で、誰もが利用できるような交通アクセスを検証していただきたい。	（ご意見として参考にさせていただく）	8月2日 まちづくり協働センター

新病院基本設計に関する市民説明会　質問及び回答
（令和8年7月30日　有馬富士共生センター、令和8年8月2日　まちづくり協働センター）

No	項目	質問内容	回答内容	日程・場所
28	事業費・収支計画等	●整備費について、基本構想時254億円から約3倍になっているが、算定時期や根拠を教えてほしい。中東情勢が厳しくなっているが、まだまだ事業費は高騰すると思う。どこまでなら予算として耐えれるのか。年内を目途に教えてほしい。 ●また、利息についてもどう考えているのか教えてほしい。	●我々も事業費高騰を懸念しているが、今回も普通交付税措置の見直しがあり、市税負担が減っている。事業費だけではなく、収入を含めてトータルで考えていきたい。 また、利息については病院建物（30年償還）は2.2%、医療機器（10年償還）は1.9%で試算している。将来のことは分からないが、最新動向を見ていく。秋ごろには見直しした整備費を公表する予定としているが、収支計画については年内に総務省から出される地方財政対策や診療報酬改定の影響も反映させたいと考えている。	7月30日 有馬富士共生センター
29	事業費・収支計画等	●概算整備費について、これは概算となっているが、これ以上、上がっていくのか？また、神戸市は「支援」となっているが、神戸市内に病院を作るということは神戸市民が恩恵を受ける。神戸市の利益になるものは神戸市が負担すべきと思うがいかがか。神戸市北区（北神地域）の人口と三田市人口は一緒くらいなので、事業費を折半すべきでは？	●最終的に額が確定するのは当面先になるかと思う。神戸市の支援について、公立病院と民間病院の再編統合ではあるが、神戸市を交えて基本協定を交わしており、用地取得費の普通交付税相当額以外分や、政策医療の収支不足額の神戸市民入院患者分を支援いただくということになっている。	7月30日 有馬富士共生センター
30	事業費・収支計画等	●以前示してもらった概算事業費は254億円ではなかったのか。その時には市税負担額が書かれていなかった。令和7年3月広報に市財政のひっ迫について書かれている。財政ロードマップも示されている。三田市民には痛みを共有するよう書かれているが、市民生活が今以上に低下しないことを示していただかないと心配だ。病院ができても福祉が後退し、予算が減額してしまったら、三田市に人を呼び込めない。ごみ袋についても市民がNOを突きつけた。複合的に物事を考えてほしい。そういった視点が抜けている。この事業について誰が責任を持つのか。	●基本構想時の事業費254億円の話が出たが、基本計画策定時だけでなく、その前にも市民の意見を聴く場を数多く設けてきた。済生会とも協議を重ね、市議会にも説明してきている。	7月30日 有馬富士共生センター
31	事業費・収支計画等	●交付税単価上限が上がって、市税負担が減額となった説明は理解できた。ただ、私は基本構想時254億円の市税負担を明記するべきだと言っている。今から示したとしても困ることはないのではないのか。市税負担額を見て様々な意見を持つ人はいると思うが。	●基本構想時254億円の市税負担を示していないのは、基本計画策定時の市民説明でどれだけ増額となったかをお示しているだけでなく、今回は基本設計策定時の市民説明なので、基本計画策定時との比較を出させていただいた。 新病院がなければ93億円の収支不足がなかったというわけではない。 財政負担が急激に増えるのはR15年度あたりからになるが、これは新病院建築にかかる大きな借金を借り入れた後にしばらく利息だけ払っていたものが、元金の支払いが始まることになるためである。	7月30日 有馬富士共生センター
32	事業費・収支計画等	●県補助金26億円とあるが、兵庫県は起債許可団体となっている。そんな状況で県に補助金を捻出していただけるのか。県から補助金をもらえることは確定しているのか。	●今からこの補助金申請を行う段階のため確定していないが、県補助金の２/３は国の財源であり、今後も引き続き国や県に要望していく。	7月30日 有馬富士共生センター
33	事業費・収支計画等	●市長選の争点にもなっていたかと思うが、以前の事業予算が200億円台だったと記憶していて、そこからかなり増額したなという印象を受けるが、何か手立てはないのか。	●254億円から事業費増となったことについては、我々も想定しておらず、どこまで増えるか懸念している。ただ、交付税措置単価が59万円/㎡から85万/㎡まで上がっていることで、実質的な財政負担は抑えられていると考えている。	8月2日 まちづくり協働センター
34	事業費・収支計画等	●今回試算した概算事業費は、ホルムズ海峡封鎖の前のものか。今後も上がる可能性はあるのか。	●ホルムズ海峡封鎖前に試算したもので、今後上がる可能性はあると考えている。	8月2日 まちづくり協働センター
35	事業費・収支計画等	●私は以前から病院再編計画に反対している。医療圏をまたいで、総事業費が1,000億円にもなるのではないかという事業を、人口が減少していっている三田市が進めなければならないのか理解できない。これは兵庫県がするべき仕事ではないのか。三田市は地域に密着した医療を提供するべきではないのか。その中で、①実質公債費比率の見通しの策定及び公表、②再編統合の是非を問う住民投票を実施することの2点を要望する。	●実質公債費比率については、財務部で財政収支見通しを作成する中で、どう捉えるのかだと思う。 ●住民投票の実施についてだが、これまで再編統合については議会の皆さんをはじめ多くの方々と協議を重ねて進めてきている。開院が令和12年度中と少し先にはなるが、地域の皆さんの命を守る病院ができると考えておりますので、引き続き事業を推進していく。	8月2日 まちづくり協働センター
36	事業費・収支計画等	●4月9日に公表された事業費について、三田市は金利を2%で試算しているが、実はもう3%になりつつある。30年間かけて借金を返済していくのであれば、新しい情報で試算すべきではないか。 ●円安がもっと進んでいく中で三田市の試算は全くあてにならない。中東情勢も厳しくなって燃料代や建設コストも上がっている。実際の建設コストは100万円/㎡を超えている中で数字を小さく見せているだけではないか。昨年あったごみ袋の値上げも一旦凍結となっているが、形を変えて出てくる可能性もある。市内の小中学校や幼稚園、保育所をどんどん統廃合し、子育てしにくい市になってしまう。 ●新病院開院2年目から毎年数億円単位で黒字になるという説明だが、どこにそんな病院があるのか。全国の公立・公的病院の8割以上が赤字となっている。市民をごまかす数字ではなく、正確な数字を示しながら説明してほしい。	●我々は嘘の情報に基づいて積算を行っている訳ではなく、本当に必要な費用を算出している。また、サウンディング調査で市況も把握している。秋頃を目途に事業費の積算したものをお示ししたいと考えている。市民への説明不足とならないよう、これからも正確な情報を発信して、再編統合を進めていきたいと考えている。	8月2日 まちづくり協働センター
37	事業費・収支計画等	●交付税措置が変わってたくさんもらえることだが、理論上の交付税措置40%というのは希望的観測なのか。	●交付税措置については、実際に借り入れた利率ではなく、国が別途設定する利率で措置されるものであるため、「理論上の」という表現にさせていただいた。資金調達の手法については今後研究していく。	8月2日 まちづくり協働センター
38	事業費・収支計画等	●交付税措置として40%を想定しているとのことだが、あくまでも40%が上限なのか。国が制度を見直す場合もあるので、この率が下がったら三田市の負担も増えるのか。	●総務省からの通知で、実施設計を令和9年度までに着手していれば40%の交付税措置を受けることが出来ることとなっている。人口が減少する中で税収は過去最高となっているが、交付税の財源は必ずしも人口に相関する訳ではないので何とも言えない。ただ、今回の新病院整備費については基準財政需要額に計上されるので、その分の交付税は必ず増えると考えられる。	8月2日 まちづくり協働センター

新病院基本設計に関する市民説明会　質問及び回答
（令和8年7月30日　有馬富士共生センター、令和8年8月2日　まちづくり協働センター）

No	項目	質問内容	回答内容	日程・場所
39	事業費・収支計画等	●済生会の収支計画を手に入れたが、5億5千万円の指定管理料を三田市が済生会に支払うが、減価償却費は0円になっている。	●先ほど説明させていただいたとおり、新病院のオーナーは三田市で、借主が済生会となる。減価償却費というのは、基本的に資産を所有している主体が会計上処理するものなので、三田市が減価償却費を計上し、済生会は計上しない。	8月2日 まちづくり協働センター
40	その他	●佐藤総合計画との契約だが、設計業務と基本設計基礎調査業務とが分かれており、基礎調査業務が3か月延長していた。この理由を伺いたい。	●神戸市との開発事前協議における大規模開発事業届出書作成のため契約を延長した。	7月30日 有馬富士共生センター
41	その他	●最初の検討委員会が、統合ありきだったのではないか。検討メンバーを見たが、地域の実情を知らない委員が多いのではないか。こんなことをやっているから、ややこしいことになっている。 ●済生会の経営が悪いと聞く。三田市を拠点として診療エリアを広げたらいいのではないか。海側に病院がたくさんあるので、神戸市はこの事業に入る必要がないと考えているのではないか。今からやめろとは言わないが、もっと真剣に考えるべきだったのではないか。	●先ほども申しあげたとおり、神戸市の支援については、用地取得費の普通交付税相当額以外分や、政策医療の収支不足額の神戸市民入院患者分を支援いただくということになっている。	7月30日 有馬富士共生センター
42	その他	●資料に説明の主体者や責任者名が資料に書かれていない。部署や日付が書かれていない。8月2日開催分の資料は書き直すこと。	●8月2日開催分の資料については、既に印刷したものを用意しているため、作り直しは困難であることをご理解いただきたい。資料はあくまで、スライドに投影するものと同内容をお手元で見ていただきやすくするために作成したものである。	7月30日 有馬富士共生センター
43	その他	●なぜ説明会をここで開催したのか。もっと参加人数が多く見込めるような場所での開催は考えなかったのか。	●これまでからも市民の皆さんに本事業について、丁寧に説明を重ねてきた。これまでの経緯や財政負担の枠組み等は変わっていないことから、回数を減らしているが、平日・休日/農村部・市街地を考慮して開催することとしている。	7月30日 有馬富士共生センター
44	その他	●以前、一般病床400床の中で差額室料を取れるのは3割と聞いたが、現在もその決まりはあるのか。	●差額室料をとれるのは3割となっているのは、国の規定で決まっている。両病院の病床合計は568床となっているが、医療需要の分析をして、入院患者数を計算した上でのピーク時に合わせて425床を設定した。	7月30日 有馬富士共生センター
45	その他	●高齢者タクシー助成を受けているが、病院の場所が変わると金額が倍になってしまう。また、目的地が神戸市だったとしても助成は受けれるのか。	●高齢者タクシー補助については所管が異なるため、いただいたご意見を交通事業担当部署と共有しておく。公共交通を補完するシャトルバス導入や運賃助成については、市民の皆様に具体的に説明できるタイミングでご説明させていただく。	7月30日 有馬富士共生センター
46	その他	●増加する診療科目を教えてほしい。	●現在、三田市民病院が20診療科、済生会兵庫県病院が22診療科を標ぼうしているが、これらの診療科は新病院にも引継ぐ。新病院は、心臓血管外科、乳腺外科、小児外来、総合内科、腫瘍・血液内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、緩和ケア内科等の新規で標ぼうする診療科を合わせて35診療科となる。	7月30日 有馬富士共生センター
47	その他	●もし、購入するマイホームが3,000万円から6,000万円に上がったら、私は購入をやめる。市としてどこまでの予算なら事業を進めていけるのかを考えておいてほしい。	●事業の推進には、出ていくお金と入ってくるお金の両方を相殺した実質負担額を冷静に分析することが重要であると考えている。	7月30日 有馬富士共生センター
48	その他	●今年6月に神戸市北区で開催された事業認定説明会に参加したが、土地収用法を使ったらメリットとして5,000万円の控除を受けることができると聞いた。この事業は事業認定の手続きを経なくても控除を受けることができるのではないか。	●公共施設で用地取得した場合すべて控除を受けれるわけではない。個別の法規定の中で事業認定を受けなくても税控除を受けれるものもある。病院事業は土地収用法第3条の規定に列挙されている事業だが、事業認定の手続きを経なければ控除を受けることが出来ない。	7月30日 有馬富士共生センター
49	その他	●サウンディング調査をしているといっても、この間金利が上がっていく。議会に入る情報が遅くなると、市民が情報を得るタイミングも遅くなる。速やかに情報を発信するべき。	（ご意見として参考にさせていただく）	8月2日 まちづくり協働センター
50	その他	●30年後の病院建て直しはどうなるのか。	●30年後の病院建て直しをどうするかは全くの未定。医療需要も変化していると思われるし、入院しなければできなかった医療が外来でできるよう法改正がなされるかもしれない。そういったことも全て含めて検討していくことになると思われる。	8月2日 まちづくり協働センター
51	その他	●今回の熊本地震のような地震があった場合、2つの病院があれば安心だが、その病院が1つになることに不安を覚えている。コロナのような感染症がまた広がるかもしれない。けやき台にある三田市民病院ががなくなったらどうなるのか。今の病院を充実させてほしい。ガス爆発のあった熊本のイオンは鉄骨造。鉄筋コンクリート造の三田市民病院の方が安心ではないか。市民が今後借金を背負ってまで病院作るのが本当にいいのか。	（ご意見として参考にさせていただく）	8月2日 まちづくり協働センター
52	その他	●このあたりは市街化調整区域でかなり審査が厳しいと聞いたが、なぜ病院建設が認められたのか教えてほしい。	●市街化調整区域は病院等が建たないところではあるが、事前に神戸市担当部局との協議を進めており、確約はないが概ね許可がいただけそうな状況となっている。	8月2日 まちづくり協働センター

新病院基本設計に関する市民説明会　質問及び回答
（令和8年7月30日　有馬富士共生センター、令和8年8月2日　まちづくり協働センター）

No	項目	質問内容	回答内容	日程・場所
53	その他	●サウンディング調査に参加した業者は、入札に参加できないと聞いたが、本当にそうなのか。	●サウンディング調査に参加した業者が入札に参加できないということはないと考えている。	8月2日 まちづくり協働センター
54	その他	●現三田市民病院を充実させたい立場であるが、施設計画がどんどん進んでいるので、施設図面に対する意見をさせていただく。 まず、外来エリアへの行き方だが、元気な患者さんであれば、受付からエスカレーターを使って2階に上がれるが、車いすの方はどのエレベーターを使用するのか。 ●手術を年間5,000件行う想定だが、盆暮れ正月関係なく、毎日13人手術するのか。手術がそこまで多いと病棟がごった返すのではないか。 ●財政負担の割合は、県補助26億円を差し引いた上で、三田市が2/3、済生会が1/3となるはずだが、計算が合わない。	●新病院の整備費については、三田市がオーナーで、済生会が借主となって家賃を三田市に払ってもらうイメージとなる。これまでの事業費の中で、基本設計策定費等は、三田市が責任を持って負担しなければならないものと考え、済生会に負担を求めていない費用もあることから、済生会の財政負担が単純に1/3とならない。ただ、設計も基本設計と実施設計に分かれており、実施設計以降の費用は病院事業債という借金の対象となってくるので、それは済生会にも負担いただくこととしている。	8月2日 まちづくり協働センター